

令和4年度 桜江小学校学校評価 報告書

評価 A：十分達成 B：おおむね達成 C：課題が見られる D:大きな課題が見られる

| めざす児童像 | 目標 | 達成のための具体的方策 | 評価指標 | 自己評価 | | 改善の方向性 | 学校関係者評価 | |
|---------------------------------|----------|-------------------------|---|---|----|----------------------------------|--------------------------------|----|
| | | | | 達成状況 | 評価 | | 考察 | 評価 |
| 学び合い 高め合う子・ふるさとで学び 夢に向かう子 | 学校活用図書館の | 良書に出会い、読書の幅を広げるための図書の選定 | ・学年、学級ごとに適した図書を選定し、それを全て読んだ児童に完読賞を贈り、全校で紹介したり、としょかんだよりに掲載したりしたか。 | 完読賞をもらう児童が増えた。グランド認定の表彰は全校の場で行い、賞賛した。 | A | 来年度も取組を継続していく。 | 完読賞を贈るのはいいアイデアです。継続してほしい。 | A |
| | | 多読チャレンジの取組の充実 | ・図書委員会と連携し、学年毎に貸出目標冊数を定めて学期ごとに振り返るなど、全校で取り組むことで、進んで図書館を活用し、読書を楽しむ児童を育てることができたか。 | 月ごとに各学年と個人の貸し出し冊数を学校司書から知らせてもらった。学期ごとの実績と目標達成までの冊数を、教室と図書館前に掲示した。学年によって図書館利用の様子に差がある。 | B | 図書委員会からの呼びかけと担任からの呼びかけを併せて行っていく。 | 学年によって図書館利用の様子が違う原因を追求してほしい。 | B |
| | 基礎基本の定着 | 継続したミニ学習タイムの実施 | ・毎週火曜日に15分間設定し、周知を図り継続して実施することで、学習内容を補充・発展させることができたか。 | ミニ学習タイムの確保が難しかった。ミニ学習タイムに取り組む時には、多くの教員に児童を見てもらうことができた。 | B | ミニ学習タイムの確保ができるようにしていく。 | ミニ学習タイムの確保に努めて下さい。 | B |
| | | 書き取り・計算会の実施 | ・家勉強週間と関連させながら、月1回の書き取り・計算会を設定し、繰り返し練習することで、児童の基礎的な力を身につけることができたか。 | 家勉強週間は、書取会・計算会に向けては、繰り返し練習に取り組むことが出来た。 | A | 今後も取組を継続していく。 | 家勉強週間の取組を更に推し進めてほしい。 | A |
| | | 支援員との連携 | ・支援員と担任が記録簿により情報交換を行ったり、話合いの時間を持ったりして、連携を密にすることで、児童のニーズに合った支援を行うことができたか。 | 記録簿による情報交換、年度途中の情報交換により、児童のニーズを把握し支援を行っている。 | A | 今後も取組を継続していく。 | 支援員との連携、話合いの時間確保に努めてほしい。 | A |
| | 日常指導の充実 | 計画的な学校行事・集会活動の実施 | ・行事1か月前に計画を示し、見通しを持って取り組むことができたか。 ・毎週木曜日に計画的に集会を実施したか。 | 早目に計画をすることで、見通しをもって行事に取り組むことができた。 | A | 今後も取組を継続していく。 | 早目の計画がきちんとなされて素晴らしい。継続してほしい。 | A |
| | | 全校集会・学校行事の持ち方、内容、並び方 | ・集会では、ペア学年を意識して前後左右の間隔をとりながら整列できたか。 ・行事ごとに教職員がふり返りを行い、良さや改善点を確認することで、次年度につなげる準備をすることができたか。 | 来年度に生かすことができるように、行事ごとに振り返りを行うことができた。 | A | 今後も取り組みを継続していく。 | 教職員と生徒のふり返りが、両立してなされて申し分ありません。 | A |
| | | 学校行事につなげる日常指導 | ・日常指導で育てたいことのポイントを示し取り組むことで、正しい姿勢、礼、整列、歩行、返事等を身につけることができたか。 | 話す相手に体を向けて聞くことができている。もう少し返事ははっきりと大きな声になるとよい。 | B | 大きな行事を意識しながら、日常指導に取り組んでいく。 | 日常指導で、大きな声になるよう重点的に取組んでほしい。 | B |

| | | | | | | | | |
|--|-----------|---------------------------------------|--|---|---|---|--|---|
| 学び合い 高め合う 夢に向かう 子ども・ふるさとで 学び | 校内研究の推進 | 計画的な研究授業 | ・校内研究年間計画に沿って、計画的に研究授業と事前・事後研究を行ったか。 ・研究の視点をもとに話し合い、次の実践に活かすことができたか。 | 全学級が計画的に実施し、事後研究で出された成果や課題等を次の実践につなげることができた。 | A | 今後も継続していく。 | 研究授業を計画通り実施され、その成果や課題を日々の授業に活かして実践につなげていることは評価できる。今後も継続して取り組んでいただきたい。 | A |
| | | 学級活動と教科の学習をリンクさせた表現力の育成 | ・学級活動や教科の学習で表現力の育成をめざした取組や指導を行い、児童の話す力や書く力を高めることができたか。 | 教科の学習でも自分の考えを根拠をもって伝える活動を意図的に設定した。しかし、個人差があるため、今後も継続した取組が必要である。 | B | 様々な教科や活動の中で相手意識を持った表現の場を意図的に設定し、表現力の育成を継続して行っていく。 | 様々な活動の中で表現の場を取り入れることは有効だと思われる。少しずつ成果もあらわれている様に感じます。今後も根気強く取り組んでいただきたい。 | B |
| | | 特別活動、道徳、キャリア、各学年のつながりを大切にしたい年間指導計画の作成 | ・各教科、領域の担当や担任とが連携しながら、年間指導計画を活用し、教科横断的な指導をすることができたか。 ・必要に応じて年間指導計画の見直し、修正を行ったか。 | 担当者や担任が連携をとりながら計画に沿って指導することができた。年間指導計画を見直す場や時間の確保が難しかった。 | B | 来年度に向けて、年度末に年間指導計画の見直しを行う。 | 連携をとって計画通り実施指導されたことは評価できる。見直し修正を行い、より良い指導計画を目指していただきたい。 | A |
| | 家庭学習の充実 | 家勉週間の設定と家勉カードの活用 | ・集計結果などから、児童が家庭学習の学年目標時間を意識できるような声かけなどを行うことにより、家庭学習への意欲を高めることができたか。 | 毎月、集計結果の提示をすることができた。しかし、家庭学習の意欲を高めることは難しかった。 | B | 家庭学習の意欲を高めることができるような仕掛けが必要である。 | アンケートから家庭学習への意識は高まってきているように思われるので、根気強く取り組んでいただきたい。 | B |
| | | 見本となる自主学習ノートの提示 | ・校内での自学ノートの掲示、書籍による学習例の提示などにより、自主学習への意欲化や、学習内容の充実を図ることができたか。 | 学級によって自学ノートの掲示、書籍による学習例の提示をした。その提示に関心はもっていたが、実践までできていなかった。 | B | 自学ノートの充実に向けて、掲示するだけでなく、個々への声かけのほかにも様々な仕掛けを考えていく。 | 子供たちが関心を持つように、先生方が色々と工夫されている様子がうかがえます。実践につながるよう継続してください。 | B |
| | キャリア教育の充実 | キャリアパスポートシートの工夫 | 児童の実態に合ったキャリアパスポートシートを作成することで、児童が自分の成長を実感できたか。 | 行事や児童の実態に合わせて作成・担任がコメントを書いたものを、学期に一回保護者に目を通してもらう機会をつくった。 | B | 自分の振り返りや担任からのコメントを受けて児童自身がどう感じたか、面談等で話題にしている。 | 児童や保護者のアンケートからも成長の変化に気づいていることがわかる。今後も小さな変化を見逃さず積み重ねていただきたい。 | B |
| | | 基礎資料の蓄積 | ・学期に各シート1枚以上（夢シート、学期の振り返りを含む）の基礎資料の蓄積を行うことができたか。 | 行事等で積極的に活用し、基礎資料を蓄積することができた。 | B | 見通しを持って蓄積できるように、年間行事や単元計画と照らし合わせておく。 | 常により良い方法はないか、改良しながら取り組んでいただきたい。 | B |

| | | | | | | | | |
|-----------------|----------------------|------------------------------------|---|--|---|---|---|---|
| ○認め合い ひびき合う子 | 人権・同和教育の推進 | 自他を大切にしている心情・態度の育成 | 学級会を中心に、相手の立場に立って考える機会をもつことで、自分や仲間を大切にしている心情や態度を育てることができたか。 | 相手の立場に立った言葉遣いや聞こえる声での発表などに意識をもたせる機会を多く持つことができた。 | B | 「相手の立場に立って」を意識することは継続して、指導していく。 | 長期に渡る指導が求められる。様々な場面で自他ともに大切にして行かねばならないことを学んでいる。 | A |
| | | 人権集会の開催 | ・人権集会を開き、児童の人権意識の高揚を図ることができたか。 | 運営委員会が中心となり、「もっとなかよくなる」ことを意識した会を計画・実践した。 | A | 今後も、人権教育担当、児童会（運営委員会）担当と連携し、取組を継続する。 | 人を思いやる気持ち、大切にしている気持ちが育まれている。集会を継続していただきたい。 | A |
| | さくらえっ子 を語る会 の充 | 定期的な会の開催 | ・月1回、定期的に桜江っ子を語る会を開いて児童理解に努め、日頃の関わりに活かすことができたか。 | 回数はとても少なかったが、学級や個人のよさに目を向けて話をする機会をもつことができた。 | A | 来年度も取組を継続していく。 | 子どもに寄り添った指導ができていると思われる。回数が少ないというのであれば考慮の余地がある。 | A |
| | | 教育相談の充実 | ・「なかよしアンケート」「きいてよカード」をもとに、毎学期計画的に教育相談を実施したか。 | 清掃をなくしてロング昼休みをとるなど、教育相談の時間を確保し、全児童と教育相談を行った。 | A | 来年度も取組を継続していく。 | 教育相談は100%行われている。一人ひとりに目が向けられている。 | A |
| | 生活目標の意識化 | 生活目標の年間計画 | ・実態に合わせて生活目標を設定し、意識化を図ることができたか。 | 2か月ごとに、その時の児童の実態から生活目標を設定するようにした。自分たちに合った目標を設定し、取り組んでいた。 | A | 来年度は、生活目標の設定を各委員会に割り振り、児童主体の取組にしていく。 | 各学年に合わせ目標がたてられている。そしてそれを子どもたちが意識して生活している様子がうかがえる。 | A |
| | | 学級ごとの具体目標（取組）を決め、毎日ふり返りを行うことによる意識化 | ・毎日ふり返りを行い、生活目標カレンダーに記録をしていくことで、目標を意識し、よりよく生活しようとしたか。 | 毎日ふり返りをする中で、意識を継続することができた。ふり返りに要する時間を短縮することができた。 | A | 来年度も取組を継続していく。 | 振り返りをする中で何気ない会話の中に目標がしっかりと示されている。意識化ができていく。 | A |
| | 児童会活動の活性化 | 年間の児童集会計画 | ・年間児童集会計画を示すことで、児童の自主的・主体的・計画的な児童会活動にすることができたか。 | 年度始めの計画に沿って、学年や委員会を主体とした集会を開催した。 | A | 来年度も取組を継続していく。 | 各委員会活動が活発に行われている。子どもたちの掲示もわかりやすく丁寧である。 | A |
| | | 主体性を伸ばす縦割り班活動の在り方 | ・つきたい力を明確にして、計画的に縦割り班活動を実施することで、主体的に活動する児童を育てることができたか。 | 清掃活動では、高学年が中心となって活動を行った。 | B | 活動の場が、清掃活動と運動会時に限られていた。それ以外での縦割り班活動も企画できるとよい。 | 縦割り班で清掃活動をしたり、集会でゲームをしたり等おもいやりあふれる班活動となっている。 | A |
| | | ・清掃指導の共通理解 | ・班長指導の場をもったり、正しい清掃の仕方を身に付けるための取組を行ったりすることで、進んで清掃活動に取り組む児童を育てることができたか。 | 掃除ボックスにそうじのめあて表（重点事項）を常備しておくことで、めあてを意識して縦割り班による清掃活動ができた。 | A | 来年度も取組を継続していく。 | 写真等で道具や備品の場所、めあてがわかりやすくなっており工夫が見られる。また子どもたち自ら清掃を行おうとする気持ちも培われている。 | A |

| | | | | | | | |
|-----------|----------------------------|---|--|---|-------------------------------------|---|---|
| 体力づくり | 目標に向かって取り組む朝マラソン | ・体育委員会と連携し、みんなで日本一周を目標とし、全校で朝マラソンに取り組むことができたか。 | 回は少なかったが、体育委員会が中心となって取り組んだ。 | A | 毎週開催されるとよい。 | 体力向上のため必要と思う | A |
| | マラソン記録会の開催 | ・朝マラソンや体育での取組を活かしてマラソン記録会を実施したか。 | 体育委員会と連携し、取り組むことができた。 | A | 来年度も継続して実施していく。 | 可能であれば、個々の目標設定(記録)し個々のモチベーションの向上を図る。 | A |
| | ラジオ体操、さくらえっ子体操の実施 | ・朝マラソンの時間のラジオ体操、学級朝礼時等にさくらえっ子体操を実施し、運動の機会を増やすことができたか。 | 朝マラソンの実施回数が計画より少なくなったため、各学級の取組に任せる形となった。 | B | 体育委員、体育主任で、取組を促していく。 | 1学期に比べ2学期のアンケート集計での肯定的評価値が低くなっているのに注意。 | B |
| | なわとび集会の開催 | ・朝なわとびの取組に合わせ、児童の意欲向上を図ったなわとび集会を開催したか。 | 体育委員会が中心となり、早めに計画し、全校児童に呼びかけた。 | A | 来年度も、マラソン記録会後は朝なわとびとし、取組を継続していく。 | 行事の活性化を期待します。 | B |
| メディア取組の充実 | 「毎月10日」と「学期に1回」の継続した取組 | ・家族へも取組についてPRし、中学校と連携したりすることにより、家族みんなで取り組むという意識をもたせることができたか。 | 中学校と連携し、取組みの目標や実施期間を合わせて継続して取り組むことができた。 | A | 来年度も小中と実施時期を合わせて行う。 | この取組の家族への周知の徹底を望む。 | B |
| | 取組の啓発 | 保健委員会で啓発活動を行ったり、保健だより等で紹介をすることで、取組の充実やメディアとの上手な付き合い方を意識させることができたか。 | 小中合同の保健だよりで取組みの様子を紹介することで双方の様子を知ることができた。 | A | 小中合同の保健だよりは継続する。取組の内容について今後検討が必要。 | 保健だよりで基本的な生活習慣の定着を引き続き啓発してゆく必要がある。 | A |
| | メディアとの上手な付き合い方や生活習慣の向上のために | ・外部講師を活用したり・保健指導の場で学習することで、メディアとの上手な付き合い方や良い生活習慣について児童の意識を高めることができたか。 | 5・6年生とその保護者を対象に、外部講師による講演会を行った。今後も継続して行いたい。 | A | 来年度も外部講師の活用を継続して行う。 | 引き続き取組の充実を望む。 | A |
| | 学校保健委員会の開催 | ・外部機関と連携を図り、保健に関する学校保健委員会を開催したか。 | 今回は学校保健委員会としては開催できなかったが、別日に4～6年生を対象に外部講師による「性に関する講演会」を実施することができた。 | A | 来年度も学校の健康課題解決に向け外部機関と連携し開催する。 | 引き続き取組の充実を望む。 | A |
| 指導に充てる | 給食献立と連携した給食集会の開催 | ・教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。 ・献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、地場産物や栄養的な特徴などを計画的に指導できたか。 | 給食時間にデジタル教科書で振り返ったり、給食の放送を聞いたりして確認できた。毎月の献立表で行事として献立との関連を提示したり、地場産物を表示して、周知を図った。給食委員会で和食文化について集会を2月中旬実施予定。 | A | 来年度も計画的に実施していく。 | 食をとおして、地産地消等地域の食文化を学ぶことも必要と思う。 | A |
| | 給食委員会やICTを活用した給食指導の工夫 | ・給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。 ・手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。 | 担任と協力して行った。教室を巡回し配膳や食事マナーの声掛けを継続して行った。給食委員会で後片付けの仕方を提示してもらい、毎日チェックや声掛けをした。 | A | 「給食のできるまで」を活用し、感謝の気持ちや衛生管理の指導をしていく。 | 最低限の食事マナーの指導を希望する。 | A |
| | 給食目標の年間計画 | ・給食委員会の提示する給食時間の目標をもとに、給食のめあてを設定し、めあてを意識した取組にすることができたか。 | 設定しためあてをもとに、食べる前にその日に意識する内容を確認してから合掌するなど、毎日意識して食べることができた。 | A | 来年度も継続して実施していく。 | 食前に色々な方々の『おかげ』を感じ、合掌する大切さを感じることは大切である。この意識づけは評価できる。 | A |

| | | | | | | | | |
|--------------------|------------|------------------|---|--|---|--|---|---|
| すべての子どもたちの学びを支える学校 | 防災・防犯意識の高揚 | 学期ごとの避難訓練実施 | ・諸災害を想定した避難訓練を学期に1回実施し、児童の防災意識を高め、避難の仕方を理解させることができたか。 | 1学期は水害を想定した小中合同避難訓練を初めて実施した。2学期は休み時間に火事を想定した訓練を実施し、児童が自ら考えて行動する姿が見られた。 | A | 小中合同避難訓練では、職員から課題が多く挙げられた。災害時の小中連携についての備えが必要と考える。 | 今年度も実際にあったように豪雨時の下校に関しても様々な意見がありました、スクールバスで帰すことや避難所としても小中で連携することを想定した訓練は意義があることだと思います。地震に対する訓練も行っても良いかもしれません。 | A |
| | | 職員の防犯訓練実施 | ・年1回防犯訓練を実施し、職員の防犯意識を高めることができたか。 | 今年度は実施しなかった。 | C | 来年度は実施する。 | 全国でも子どもを狙った犯罪は後を絶ちません。いつ起こるか分からないその時のため日頃からの訓練は重要だと考えます。 | C |
| | 働き方改革 | 教職員の業務負担軽減の推進 | ・スクールサポートスタッフの活用を推進し、教職員の業務負担の軽減、児童との関わりの時間を保障することができたか。 | スクールサポートスタッフ配置のおかげで教職員の業務負担が軽減できている。 | A | スクールサポートスタッフの配置があれば、今後も取組を継続していく。 | 授業中においてスクールサポートスタッフの活用により、教職員の負担軽減に寄与していると感じます。 | A |
| | | 定時退勤日の設定 | ・定時退勤日を設け、職員が健康やワークライフバランスを意識することができたか。 | 自己申告の定時退勤日を設けたが、自己申告する職員は少ない。アンケートを実施し、職員の声から業務改善を行った。ワークライフバランスが取れているという職員は6割強であった。 | B | 職員の声から職員で話し合い業務改善を行うことは今後も継続する。職員が働きがいを感じる事ができるように支援が必要。 | 授業以外で感染症対応等で負担が増加しているのではないかと思います。休日にも学校に車があると、休日出勤されているのだなど申し訳なく思うこともありました。PTAの事務等も負担にならないようにと思います。 | B |
| | 地域との連携 | HPの月2回の更新による情報発信 | ・月2回、ホームページを更新することで、積極的に情報を発信したか。 | 2学期以降のホームページ更新の頻度が減った。 | B | 今後、ICT支援員、スクールサポートスタッフも更新作業ができるようにし、積極的に情報発信していく。 | 実際どのくらいの閲覧があるのか。正直あまり見ていません。更新したことを通知できれば閲覧するかもしれません。見る人が増えれば更新につながるかもしれません。負担にならない程度で。 | B |
| | | 地域との連携を強める情報共有 | ・校外学習やふるさと学習の際に、地域の方とねらいを共有することで、学習効果を高めたり、地域貢献につなげたりすることができたか。 | 外部講師を招聘する際には、打合せを行い、ねらいを共有し、学習することで、学習効果を高めることができた。 | A | 今後も取組を継続していく。 | 様々な面で地域との連携は重要で、毎朝の登校時に引率して下さる方々にも頭が下がります、また今後はPTA活動についても会員の減少に伴い地域との連携を図っていくことも検討する必要があると思います。 | A |
| | 安全管理 | 優先順位をつけた修繕活動 | ・毎月の安全点検の結果をもとに、計画的に修繕活動を行うことで、安全管理に努めることができたか。 | 毎月の安全点検、日常の校内巡視を行い、適宜対応できている。 | A | 今後も取組を継続していく。 | 日常的な安全管理は必要ただ取り組みが見えにくい。 | A |
| | | 子ども修繕アンケートの実施 | ・年1回、子ども修繕アンケートを実施し、児童の安全を保障するとともに、児童の安全への意識を高めることができたか。 | 子ども修繕アンケートを行い、アンケート結果から修繕を行った。このことが児童の安全意識の向上につながっているかは今後検討が必要。 | A | 今後も取組を継続していく。 | アンケート結果が不明子どももアンケートのことを聞いても記憶していない。 | B |